

群 教 七	G14 - 01
	平 24. 246集

自分の考えを明確にし、進んで表現する 意欲を高める探究的な学習の指導

——「リサーチ活動」と「くらべっこシート」を

学習に取り入れて——

長期研修員 長島 明美

《研究の概要》

本研究では、進んで表現する意欲を高める探究的な学習の指導について取り組んだ。「課題の設定」において、調べる根拠・理由を明確にするための「リサーチ活動」を、「情報の収集」「整理・分析」の過程において、目的や根拠・理由を明確にするための「くらべっこシート」を用いた活動の工夫を手だてとすることで、自分の考えを明確にし、進んで表現する意欲を高めることができるようにした。

キーワード 【総合的な学習の時間 探究的な学習 リサーチ活動 くらべっこシート】

I 主題設定の理由

小学校学習指導要領解説「総合的な学習の時間編」において、改善の具体的事項の一つに「子どもたちにとっての学ぶ意義や目的意識を明確にするため、日常生活における課題を発見し解決しようとするなど、実社会や実生活とのかかわりを重視する」ことが示された。ここに示されたように従来の総合的な学習の時間では、学ぶ意義や目的意識が明確にされないまま授業が行われていたことが多かったことが推測できる。

また、平成22年度「群馬の子どもの基礎・基本習得状況調査」（社会）の意識調査で、「調べる活動」に対して90%を超える児童が関心をもっていることが明らかになった。その一方で「発表する活動」については、50%の児童が消極的な回答をしていることも明らかになった。

同様に、協力校における総合的な学習の時間の児童の実態においても、調べ学習に対しては、ほとんどの児童が意欲的に取り組んでいる。しかし、まとめ・表現の過程では、図書やインターネット、インタビュー等から得られた情報をそのまま書き写してしまうことに終始してしまい、「分かったことを知らせたい」といった能動的な発表には至っていない。

これらの原因は、調べる根拠・理由が明確にならず、切実感のある課題となっていないこと、情報を収集する際、何のために、どのようなものを調べればよいのかといった目的が明確になっていないため、自覚的な情報の収集ができず、闇雲に情報の収集を行っていること、情報を収集してきたものの中から、まとめ・表現のために必要なものを取捨選択する際、根拠・理由を明確にすることができていなかったことなど、まとめ・表現の過程以前の学習指導にあることが考えられる。

このことから、総合的な学習の時間の学習において、児童自身が調べる根拠・理由、情報収集の目的、情報の取捨選択の根拠・理由など、自分の考えを明確にし、学習に取り組めるようにすることが必要であると考え。そこで、本研究では、調べる根拠・理由を明確にできるようにするための「リサーチ活動」と、自覚的な情報の収集を行い、集めた情報の中から必要な内容を取捨選択し、その根拠・理由を明確にできるようにするための「くらべっこシート」を学習に取り入れ、自分の考えを明確にして学習に取り組めるようにすることで、進んで表現する児童を育てていきたいと考える。

以上のことから、「リサーチ活動」や「くらべっこシート」を学習に取り入れることが、小学校総合的な学習の時間において、児童が自分の考えを明確にし、進んで表現する意欲を高める上で有効であると考え、本主題を設定した。

II 研究のねらい

小学校総合的な学習の時間の「課題の設定」の過程に自己の調べてみたいことを基にした「リサーチ活動」を、「情報の収集」「整理・分析」の過程に「くらべっこシート」を用いた学習を取り入れることにより、児童が自分の考えを明確にし、進んで表現する意欲を高められることを実践を通して明らかにする。

III 研究の見通し

小学校総合的な学習の時間において、以下の三点を取り入れた探究的な学習に取り組めるようにすれば、児童が自分の考えを明確にし、進んで表現する意欲を高められるようになるであろう。

- 1 「課題の設定」において、自己の調べてみたいことを基にした「リサーチ活動」を行えるようにすれば、調べる根拠・理由を明確にできるようになるであろう。
- 2 「情報の収集」の過程において「くらべっこシート①」を取り入れた学習を行えるようにすれば、情報の収集の目的を明確にとらえ、自覚的に情報の収集活動を行うことができるようになるであろう。
- 3 「整理・分析」の過程において、集めた情報の整理・分析を促すことのできる「くらべっこシート②」を利用した活動を行えるようにすれば、まとめ・表現するために自分が取捨選択したことの根拠・理由を明確にもつことができるようになるであろう。

IV 研究の内容

1 自分の考えを明確にするとは

本研究において自分の考えを明確にするとは、児童自身が調べる根拠・理由、情報の収集の目的、情報の取捨選択の根拠・理由などを明確にするということである。

「課題の設定」の過程における、自分の考えを明確にするとは、調べる根拠・理由を明確にすることとする。課題に出会ったとき、児童は、漠然と調べてみたいと思うことをもっている。それを切実感のある課題にするためには、なぜ調べるのか、調べることで何を明らかにしていくのかという調べる根拠・理由を明確にする必要があると考える。

「情報の収集」の過程における、自分の考えを明確にするということは、情報の収集の目的を明確にするということとする。自覚的に情報の収集活動をするためには「インターネットに出ているから」「一度経験したことがあるから」と受動的にとらえるのではなく、追究に向けて「〇〇をすることによって△△を確かめる」「一度体験したことだが、もう一度体験して確かめてみたい」など、何のために何を調べる必要があるのかを自覚し、情報と能動的にかかわることが必要であると考えられる。

「整理・分析」の過程における、自分の考えを明確にするということは、まとめ・表現のために自分が取捨選択したことの根拠・理由を明確にもつということとする。進んで表現するためにはこれまでに収集した多様な情報の中から「伝えたい」「知らせたい」と思うまとめ・表現のために必要なものを取捨選択し、その根拠・理由を明確にもつことが必要であると考えられる。

2 進んで表現する意欲の高まった児童とは

進んで表現する意欲の高まった児童とは、探究的な学習の過程の中で、表1のように自分

表1 探究の過程と自分の考えを明確にできた児童

課題の設定	○調べる根拠・理由を明確にし、調べたことを伝えたいという思いをもっている ・調べてみたい ・調べて分かったことを教えたい
情報の収集	○自覚的な情報の収集のために、なぜ調べたり、体験したりする必要があるのかという目的をもっている ・〇〇を調べる必要があるな ・△△について体験したいな
整理・分析	○必要な情報を取捨選択し、その根拠・理由を明確にし、伝えたいという思いをもっている ・大切なことは〇〇だ ・伝えたいことは△△だ

の考えを明確にし、さらに「まとめ・表現」の過程において、表現することに対して意欲をもって能動的に取り組もうとする児童である。

3 「リサーチ活動」について

課題の設定に向けて「リサーチ活動」を設定する。「リサーチ活動」は、グループでの簡単な調査活動、学級全体での意見交流、グループでの分析・まとめの三つの活動から構成する(図1)。このグループは、同じ内容に興味をもっているメンバーで構成されており、その後の活動も同じメンバーで行う。

調査活動は、自分たちが漠然と調べてみたいと思うことについて周囲の人に簡単なアンケートやインタビューを行う活動である。調査活動により、自分たちが調べてみたいことについての周囲の人のニーズや理解度を知ることができる。

学級全体での意見交流は、調査活動の結果について「気付き」「疑問」「アドバイス」の三つの観点から意見を出し合う交流である。この意見交流により、自分たちが調べてみたいことについて多面的に考えることができる。

グループでの分析・まとめは意見交流で出された意見を「情報の収集に生かす」「まとめ・表現に生かす」といった観点から分類し、また、その度合いが「重要」であるのか「参考」とするものであるのかを分類しながら話し合う活動である(表2)。このことにより、課題をより焦点化することができ、根拠・理由をもって課題の設定ができると思う。

この「リサーチ活動」を、探究の過程における「課題の設定」の場に位置付けることで(図2)、調べてみたいことを多面的にとらえ直し、調べる根拠・理由を明確にすることができると思う。

4 「くらべっこシート①」を取り入れた学習について

(1) 「くらべっこシート①」を取り入れた学習についての基本的な考え

「情報の収集」の過程では、児童が情報の収集の目的を明確にして自覚的に情報の収集活動を行うことが大切である。闇雲に何でも調べるのではなく、一つのことについて深く調べられるようにすることで目的が明確になり、自覚的な情報の収集活動ができると考える。そこで一つの事柄に対して複数の視点を持ち比較しながら情報を収集すること、そこで得た情報を見比べて課題に取り組むためにさらに必要な情報は何かを考えて情報を収集することができるようにしたいと考える。

(2) 「くらべっこシート①」を取り入れた学習の流れについて

まず、調べたい一つの事柄に対して複数の視点を持ち比較しながら第一次情報の収集を行えるようにする。ここでは、情報の収集のための複数の視点を書き込める「くらべっこシート①」(図3上)を活用する。このシートを活用することで、児童の情報の収集への目的意識が高まり、自覚的な情報の収集を促すことができると思う。複数の視点を持ち調べて得た情報は記録カード(図3下)に記入して「くらべっこシート①」に蓄積していくようにする。

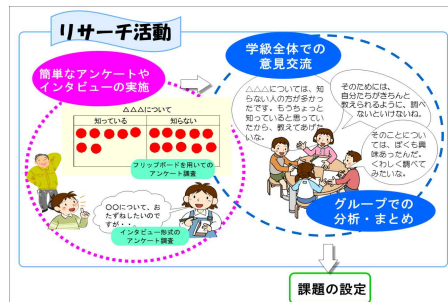


図1 リサーチ活動

表2 意見交流後の分類のマトリックス

	視点	調べ学習に生かす	まとめに生かす
重要度			
重要			
参考			
課題として考えたこと			

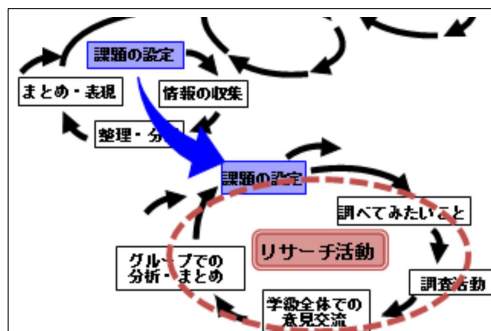


図2 「リサーチ活動」の位置付け

課題 例: 石の性質	比較する対象B 例: サズカイト
比較する対象A 例: 黒曜石	比較内容 例: 主な産地
比較内容 例: 主な産地	比較内容 例: 主な産地
記録カード	
調べたいこと 調べたこと 調べた方法 調べた場所 調べた時期 調べた人	
名前()	

図3 「くらべっこシート①」(上) 記録カード(下)

このようにして収集したたくさんの情報について、全体を見て比較ができるように、蓄積した記録カードを一枚の大きな用紙（A3サイズ）に並べて貼付する。この用紙を「くらべっこシート①拡大版」とする。そして、拡大版に貼付された記録カードを見比べながら整理・分析を行った後、それを用いて、収集した情報についてグループでの報告会を設定する。これまでに集めた情報やそこから分かったことをグループで話し合うことにより、不足している情報や確実でない情報はないか確認をする。その後第二次情報の収集に取り組むことで一層自覚的な情報の収集を行うことができると考える（図4）。

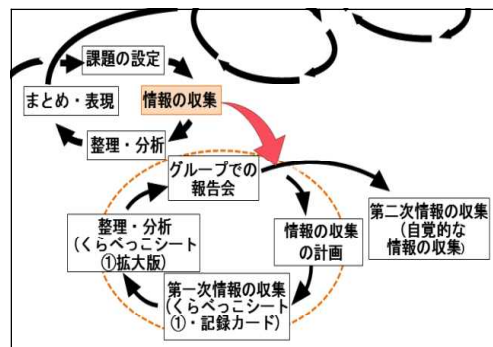


図4 くらべっこシート①を取り入れた学習の流れ

5 「くらべっこシート②」を利用した活動について

(1) 「くらべっこシート②」を利用した活動についての基本的な考え

児童は「情報の収集」の過程において多くの情報を収集している。これまでに集めた情報の中から、まとめ・表現するためには何が重要かを考えてその内容を決定していく必要がある。そこで、「整理・分析」の過程において、これまでに収集した情報の取捨選択を行い、選択したことの根拠・理由を明確にもつことができるようにするために、「くらべっこシート②」を利用した活動を設定する。ここでの情報の取捨選択は、「知らせたい」「伝えたい」という視点から順位付けを行い、根拠・理由をもってまとめ・表現していく内容の決定ができるようにする。順位付けを行うことで、必要な情報を絞り込み、伝えたいことをより明確にすることができると思う。

(2) 「くらべっこシート②」について

この過程では、集めた情報の「くらべっこ」を順位付けという方法で行う。「くらべっこシート②」は、個人の情報の順位付けとその根拠・理由を記述する「ランキングカード」（図5）と、グループで話し合った順位とその根拠・理由を記述する「ランキング決定シート」（図6）を考える。なお、話し合いの際に「ランキング話し合いシート」を補助シートとして活用する。

順位
タイトル
理由

図5 ランキングカード

(3) 「くらべっこシート②」を利用した活動の流れ

まず、集めた情報の順位付けを個人で行うようにする。その際、ランキングカードを利用する。ランキングカードに理由を書き、情報の順位付けをすることで情報を見つめ直し、重要度を考えることができる。次に、自分で順位付けをしたランキングカードを基に、グループで順位付けを行えるようにする。グループで順位付けをする話し合いの際は、理由が「なぜ」「どういったところを伝えたいと思うのか」ということを基準に行い、決定できるようにする。

ランキング決定シート		班
個人のランキングタイトル	ランキングカード	決定理由
1位		
2位		
3位		

図6 ランキング決定シート

話し合いで決定したことは、ランキング決定シートに記入できるようにする。このシートにグループで相談をして、情報の順位付けをし、その決定理由を書くことにより、まとめ・表現に必要な情報を絞り込み、伝えたいことを明確にすることができると思う。

これらの活動を通して、各自の考えを整理・分析したことの情報を共有し、グループとして取捨選択したことの根拠・理由を明確にすることができると思う。また、話し合いの際に課題の設定の場面に立ち返ることで、まとめ・表現のために取捨選択したことの根拠・理由を一層明確にすることができると思う。

6 研究構想図



V 研究の計画と方法

1 実施計画

対象	研究協力校 小学校第6学年 35名
単元名	総合的な学習の時間『岩宿調査隊Part 1』(全15時間)
実施期間	平成24年10月9日～11月20日
授業者	長期研修員 長島 明美

2 抽出児童

A	設定した課題に対して、インターネットや図書を用いての調べ学習を積極的に行うことができる。「リサーチ活動」や「くらべっこシート」を用いた学習を通して伝えたい内容を選び、根拠・理由を明確にもたせたい。
---	--

3 検証計画

検証計画	検証の観点	検証の方法
見通し1	「課題の設定」において、事故の調べてみたいことを基にした「リサーチ活動」を取り入れたことは、調べる根拠・理由を明確にする上で有効であったか。	<ul style="list-style-type: none"> 活動状況の観察 「くらべっこシート①」の記述 「くらべっこシート②」の記述 まとめ作成資料 ワークシート 振り返りカード 事前事後アンケート分析
見通し2	「情報の収集」の過程において、「くらべっこシート①」を利用した学習の場を設定したことは、情報の収集の目的を明確にとらえ、自覚的に情報の収集を行う上で有効であったか。	
見通し3	「整理・分析」の過程において、集めた情報の整理・分析を促すことのできる「くらべっこシート②」を利用した活動の場を設定したことは、まとめ・表現するために自分が取捨選択したことの根拠・理由を明確にもつ上で有効であったか。	

4 単元目標及び評価規準

(1) 目標

地域の文化財である岩宿遺跡の素晴らしさや大切さ、当時の人々の暮らしの知恵について、調べたり、学級やグループの仲間と協力し合い、相手や目的に応じて伝えたい事柄を選びまとめたりする活動を通して、郷土の歴史、文化に誇りをもつ。

(2) 評価規準

観点	【資】よりよく問題を解決する資質や能力	【学】学び方やものの考え方	【態】主体的、創造的、協同的に取り組む態度	【生】自己の生き方
単元の評価規準	・地域の文化財である岩宿遺跡や当時の人々の暮らしについて、目的や相手に応じて自分が伝えたい情報を取捨選択してまとめ、伝えている。	・地域の文化財である岩宿遺跡の素晴らしさや大切さ、当時の人々の暮らしの知恵などを「くらべっこシート」を活用しながら調べている。	・学級やグループの仲間と協力し合い、くらべっこシートを活用して調べ学習やまとめの学習を行っている。	・地域の文化財である岩宿遺跡の素晴らしさや先人の知恵を実感し、郷土の歴史、文化に誇りをもつことができる。

(3) 指導と計画の評価

過程	時間	学習活動	研究上の手だて(◆)及び主な留意点(○)	評価規準(評価方法)
つかむ (課題の設定)	3	○岩宿遺跡や先人に関心をもち、課題を決める。 ・石器作り体験、夏休み中の調べ学習を基に、同じ内容に興味をもっているメンバーで構成し、インタビューやアンケート調査の計画を立て、実施する。 ・インタビューやアンケートの調査結果の分析を行い、各自の課題を決定する。	【手だて1】 調べてみたい課題の根拠・理由を明確にするために、自己の調べてみたいことを基にした「リサーチ活動」を取り入れる。 ○インタビューやアンケートは、グループで行うこととし、無理のない活動計画が立てられるように、内容、場所、方法などについてアドバイスを行う。 ◆意見交流は学級全体で行い、ブレインストーミングの手法を取り入れることで、結果についてたくさんの感想を引き出せるようにする。 ◆グループで意見交流後の分析・まとめを通して、自分の課題決定に生かせるようにする。	【学】自分たちの思いや気づきを基にインタビューやアンケート調査の計画を立てている。(観察・ワークシート) 【態】「リサーチ活動」の結果を基に各自の課題を決定している。(ワークシート)
	1	○課題解決の方法を考え学習計画を立てる。	【手だて2】 情報の収集の目的を明確にし、自覚的な情報の収集活動を行うために「くらべっこシート①」を取り入れた学習の場を設定する。 ○ワークシートを用意しておき、グループで情報の収集のための手段や情報を集める際のキーワードを考え、記述できるようにする。	【学】調べ学習を進めるために必要なキーワードを考えている。(ワークシート)
	4	○グループで立てた計画に基づいて調べ学習を行う。 ・調べたことを記録カードに記入しくらべっこシート①に貼付する。 ・拡大版に蓄積した記録カードを項目ごとに並べ替え、気付いたことを記述する。	◆「くらべっこシート①」の活用を促すことで、複数の視点をもち調べ学習を進められるようにする。 ○児童の調べ学習がスムーズに行われるように、予め博物館や図書館にも協力を依頼しておく。 ◆報告会の場を設定し、疑問や意見を出し合えるようにすることで、不足している情報や確実でない情報がないか、確かめられるようにする。	【学】計画に基づき、調べ学習を進めている。(ワークシート)
	3	○調べた事柄をグループ内で報告し合い、整理するとともに相手に伝えたい事柄を明らかにする。	【手だて3】 必要な情報を取捨選択することの根拠・理由を明確にできるように「くらべっこシート②」を利用した活動の場を設定する。 ◆「くらべっこシート②」の活用を促すことで、調べた事柄の中からより重要な事柄を選び出すことができるようにする。 ◆「リサーチ活動」の分析を踏まえるように促すために必要な情報を選択できるようにする。	【生】岩宿遺跡の素晴らしさや先人の知恵を実感し、郷土の歴史、文化に誇りをもっている。(観察・ワークシート) 【資】目的や相手に応じて、伝えたい事柄を選んでいる。(ワークシート)
	3	○効果的に伝える手段や方法を選び、まとめる。	○新聞、パンフレット、マップなど多様なまとめ方を紹介し、自分が伝えたい相手や内容に応じて効果的な方法を選び出させるようにする。	【資】目的や相手に応じて、伝えたい事柄や伝え方を選び、まとめている。(作品・ワークシート)
まとめ (まとめ・表現)	1	○発表会を開く。	○これまでお世話になってきた、ゲストティーチャーなどから活動の評価をしてもらうことで、児童が成就感を得、今後の活動に意欲をもつことができるようにする。	【資】相手に内容を理解してもらい、共感を得られるように発表している。

VI 研究の結果と考察

1 「課題の設定」において、調べる根拠・理由を明確にできるようにするために、自己の調べてみたいことを基にした「リサーチ活動」を行えるようにしたことの有効性について

(1) 結果

児童は、前単元での石器づくり体験や博物館の見学から岩宿遺跡に関する興味・関心を高め、それぞれが「どんな食べ物を食べていたのか」「どんな服を着ていたのか」「どんな家に住んでいたのか」など調べてみたいと思うことを漠然とではあるがもっていた。

そこで調査活動を行ってみよう促した。

旧石器時代の衣服や装飾品について興味のある児童で構成したBグループは「旧石器時代の衣服について、どのような服を着ていたと思いますか」という調査を学校近くのスーパーマーケットに買い物に訪れていた大人を対象に、フリップボードを使って行った。そして表3のような調査結果を得た。

表3 Bグループの調査結果

旧石器時代の人々が着ていたと思う服					
A	葉っぱ	●●	D	草	●
B	布	●●●●●●●●	E	その他	●
C	木の皮	●●●●●●●●			

次に学級全体で意見交流を行った。調査結果に対して、Bグループの児童は、「ぼくたちは、博物館で動物の毛皮を着ていたと教えてもらったけど、選択肢に入れなかったら毛皮と答えた人が少ない。大人でも旧石器時代の人々が着ていた衣服のことを意外と知らないことに驚いた」といった感想を漏らしていた。調査結果の報告を受けたクラスの皆は、「木の皮と答えている人が多かった」「動物の毛皮と答えた人が少ない」などの気付きや「草から服が作れるのか」「旧石器時代に布があったのか」といった疑問、「実際に草で服を作っていたのか、調べて教えての方がよい」という課題を多面的にとらえたアドバイスを出し合った(表4)。

表4 Bグループへの主な気付き

	内容
気付いたこと	木の皮だと思っている人がすごく多い 木の皮だとかんちがいしている人がいっぱいいた 動物の毛皮という人が少ない
疑問	旧石器時代に布はあったのか 草から服が作れるのか この時代の布はどういうものなのか この時代に針や糸はあったのか 昔の人はどうやって服を作っていたのか
アドバイス	本当は何を着ていたのか調べて教える

その後、グループに分かれクラスの皆から出された意見を「情報の収集に生かす」「まとめ・表現に生かす」「重要」「参考」の観点から分類しながら話し合った(図7)。Bグループの児童は「木の皮とかんちがいしている人が多く、動物の毛皮と答えた人が少ない」という気付きに対して、「自分たちもそう思う。調べて正しいことを知り、教えたいから重要」とし、「旧石器時代に布はあったのか。この時代の布はどんなものなのか」という疑問に対して「自分たちの服には必要な布だけど、それはいつ頃からあるのか知る必要がある」といった意見を出し合っていた。「どのような服を着ていたのか」という漠然と調べてみたいと思ったことについて調べる根拠や理由を明確にし課題を設定することができた。

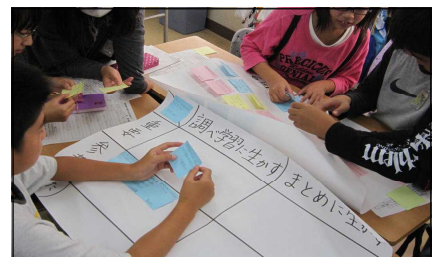


図7 分類のマトリックスを活用した話し合いの様子

上記のように分類しながら話し合いを行う中で、Bグループでは、「調査の結果、どういう服を着ていたのか知らない人がいるので知らせたい」「動物の皮からどのように服を作るか分からないから調べたい」「みんなの意見にあった、草から服が作れるかどうかは調べないといけない」など、調べる根拠・理由を話し合いながら、表5のように六個の課題を設定することができた。

表5 Bグループの考え

課題としたこと	どうやって服をどうやって作っていたのか 布はいつ頃からあるのか 草で服は作れるのか 昔の針はどんな針だったのか アクセサリーはどうだったのか アクセサリーはどうやって身に付けていたのか
---------	---

(2) 抽出児Aの様子

Bグループの抽出児Aは、分類をしながら話し合う中で、「調査では、布の洋服と答えていた人

がいたけれど、旧石器時代には無かったんだよね。いつからあったのか、どんな材料でできていたのか、私も知らないから調べて教えてあげたいな」といった根拠・理由を述べながら、グループの課題の中から「布はいつ頃からあったのか、材料は何か」を選ぶことができた（図8）。

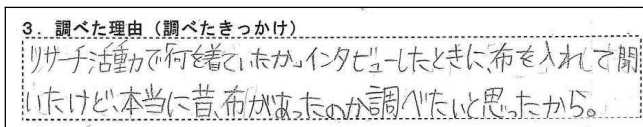


図8 抽出児Aの記述①

(3) 考察

漠然とした調べてみたいと思うことを基にした調査活動を行えるようにしたことで、「知らない人がいるから知らせたい」といった調べる根拠・理由を明確にすることができた。また、グループの思いや意見交流の場で行われた意見を基に、「調べ学習に生かす」「まとめに生かす」「重要」「参考」の観点から分類する活動を行い、自分たちの課題を見つめ直したことが多様な課題の設定と、その根拠・理由につながったのではないかと考える。以上のことから、「課題の設定」に向けて、自己の調べてみたいことをもとにした調査を行い、その結果から課題を多面的にとらえられるようにした「リサーチ活動」は、調べる根拠・理由を明確にする上で有効であったと考える。

2 情報の収集の目的を明確にとらえ、自覚的に情報の収集活動を行うことができるようにするために「情報の収集」の過程において「くらべっこシート①」を利用した学習を行えるようにしたことの有効性について

(1) 結果（第一次情報の収集～整理・分析）

「情報の収集」の過程の導入の段階において、「くらべっこシート①」を提示し、複数の視点をもち比べながら情報を集めてみるよう促した。

石器の作り方や使い方に興味のある児童で構成したCグループでは、「石器の切れ味」「石器の作り方」「石器の材料となる石」を課題として設定した。「石器の切れ味」と「石器の作り方」を選んだ児童は、「石器と同じように物を切ることができるのは包丁だから、実際に切れ味を比べて包丁と石器の作り方を調べたりしたい」といった計画を「くらべっこシート①」に記述した。そして、一学期の体験で作った石器と包丁で新聞が何枚切れるかを実験して調べたり、図書やインターネットを用いて切る道具としての石器や包丁の製造方法や材料について比べながら調べて集めた情報を記録カードに記述し、「くらべっこシート①」に蓄積した。また、「石器の材料となる石」を選んだ児童は、「石器の材料となる黒耀石とその他の石のでき方や加工の仕方の違いを調べてみたい」と計画を記述した。そして、石器の材料となる黒耀石やサヌカイトの産地や性質の違いなどについて集めた情報を記録カードに記述し、「くらべっこシート①」に蓄積した。その後、それぞれが調べたことを「くらべっこシート①拡大版」に整理・分類しながら貼り替え、内容ごとに「切れ味の違い」や「材料の違い」といった見出しを付けたり、「包丁よりも石器の方がたくさんの新聞を切ることができた」などの感想や「黒耀石は、群馬県では採れないのにどうやって手に入れたのか」などの新たに生じた疑問を記した。

(2) 結果（報告会～第二次情報の収集）

「情報の収集」の過程のまとめの段階において、拡大版に貼り替えてまとめたものを基にしたグループでの報告会の場を設けた（図9）。

報告会では、「石器の切れ味の違いについて」発表した児童に対して「だれが切っても同じように切ることができるのか確認した方がよい」という提案や、黒耀石の性質や産地について調べた児童に対して「昔の人はどうやって黒耀石の存在を知ったのだろう」などの疑問が次々と出された。その際、石器で切ることのできた新聞の枚数にばらつきが見られたことから「だれでも石器を作ったり使いこなしたりすることができたのか、博物館の館長さんに確かめたい」とさらに情報の収集の目的を明確にしていた。このように、この報告会をきっかけにして、児童は、情報の収集の目的を明確にし第



図9 報告会の様子

二次情報の収集活動を行うことができた。

(3) 抽出児Aの様子

抽出児Aは、「布はいつ頃からあったのか」「昔の布の材料と今の布の材料」について情報の収集を行い、「くらべっこシート①拡大版」にまとめた(表6)。そして、報告会の後には、同じグループの児童から質問を受けて答えられなかったことから、新たに「大麻(おおあさ)」「ムシロ」について調べる必要があると感じ、第二次情報の収集に取り組んだ。

(4) 考察

「くらべっこシート①」を用いたことで、児童は、複数の視点を持ち比較しながら調べ、目的を明確にし情報の収集を行うことができた。自分の課題に関する「今」と「昔」を比べてみたいという思いをもった児童は、「今は〇〇だね。昔はどうだったのかな」など「今」と「昔」を対応させながら、「だから、昔を調べていく必要がある」と目的を明確にしていた。そして、蓄積した情報を整理・分類しながら拡大版に貼り替え、それまでの活動を振り返りグループ内での報告会を行えるようにしたことで、課題がより一層明確になり、その結果、既に一度体験したり見聞きしたりした事柄について「もう一度確かめたい」「追加して〇〇を調べたい」という気持ちが芽生えていった。

以上のことから、「情報の収集」の過程において、「くらべっこシート①」を利用した学習を行ったことは、目的を明確にとらえ、自覚的に情報の収集活動を行うために有効であったと考える。

3 まとめ・表現するために自分が取捨選択したことの根拠・理由を明確にもつことができるようにするために「整理・分析」の過程において、集めた情報の整理・分析を促すことのできる「くらべっこシート②」を利用した活動を行えるようにしたことの有効性について

(1) 結果

集めた情報について、まず、個人での順位付けを行った。旧石器時代の食生活に興味をもつメンバーで構成したDグループでは、E児は「今と昔の食べ物の違いを伝えたい」との理由から「脳や骨ずいまで食べていた！」を一位に挙げ、ランキングカードに記入した。また、同グループのF児は、「今と同じ食生活もあったことを伝えたい」と「旧石器時代と今の漁業でとれる魚は同じ！」を一位に挙げ、ランキングカードに記入した。次にランキングカードを用いて発表を行い、補助シートに貼付していった。そして、発表されたランキングカードを見て、それぞれが「知らせたいことは何か」に基づいて意見を出して話し合い、「脳や骨ずいまで食べていた!」「旧石器時代と今の漁業でとれる魚は同じ!」「今と旧石器時代の調理法」の三つに絞り込んだ後、さらに話し合いを続け順位を決定した。話し合いの中では、「動物の肉を食べていたと答えた人が少なかった」という調査結果やE児の発表内容に基づき、「肉だけでなく今なら捨ててしまう部分も食べていたことを伝えよう」などの意見が理由として出され「脳や骨ずいまで食べていた!」がグループの一位として決定した(図10)。

(2) 抽出児Aの様子

昔の布の材料と今の布の材料について調べた抽出児Aは、「昔の布の材料」「昔の布」「織物はいつ頃からあるか」の中から「昔の布の材料」を一位として選び「昔の人は植物のせ

表6 抽出児Aの記述②

調べたこと 昔の布の材料と今の布の材料について	
見出し 布の材料	気付いたこと・感想・疑問 「大麻」とは何か?調べてみたい。
布の材料(昔) カラムシ 大麻 イラクサ	布の材料(今) 絹 麻 木綿 ポリエステル ナイロン アクリル
見出し 布について(昔) 縄文時代から作られていた ムシロのような編み方だった 手間がかかる	気付いたこと・感想・疑問 「ムシロ」は何か?調べてみたい。
見出し 布はいつからあるか 弥生時代から織りはじめたといわれていた 縄文遺跡で植物せんいで編んだ布の断片が見つかった 織物に似たあとのある土器が発見されている 布の断片はわらや竹、つるなどで編んでいた	気付いたこと・感想・疑問 縄文遺跡に織物が発見されてこんなに昔からあるんだと思った。
発表を終えて感じたこと 「ムシロ」や「大麻」についてくわしく調べて写真も探す。	

ランキング決定シート		種
班のランキングタイトル 食べ物びっくり!ランキング!!		
1位	ランキングカード 順位 1 タイトル 脳やこつずいまで食べていた! 理由 昔は、脳やこつずいまで食べていた。今と昔の食べ物のちがいを伝えたいから。	決定理由 脳やこつずいを食べていたとは知らなかった。そのことを伝えたい! 脳やこつずいを食べていたの肌より好きだった。
	順位 1 タイトル 旧石器時代と今の漁業でとれる魚は同じ! 理由 今の漁業でとれる魚と昔、採取していた魚は同じ。魚の骨は今と変わらず食べていたもの姿も変わらないことを伝えたいから。	決定理由 今の魚と同じものをとって食べている。ぼくたちは、石器時代の人たちと同じものを食べている、ということがびっくりだった。

図10 ランキング決定シート(一部抜粋)

んいの中で最も長くしかも強い大麻（おおあさ）を使って布を編んでいた知恵について伝えたい」と根拠を明確にしていた。そして、「まとめ・表現」の過程の際のワークシートには、図11のように調べて分かった事実、考えたことについて書いていた。グループの順位付けでは、「アクセサリーの材料」を選び、「今は、金属やプラスチックで作っているけど、昔の人は動物の骨や石で作っていたことにすごくびっくりして、知らせたいと思ったから」と、選んだ理由を明確にしていた。

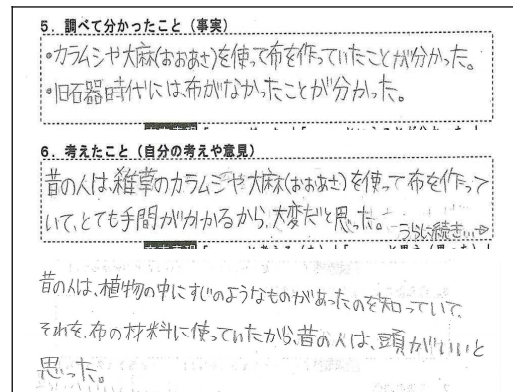


図11 抽出児童Aの記述③

(3) 考察

「くらべっこシート②」を活用して、理由を添えて順位付けをする話合いを行えるようにしたことで、集めた情報の中からはなぜそれを選んだのかといった、選択したことの根拠・理由を明確にすることができた。そして、「まとめ・表現」の過程のワークシートでは、自分なりの意見や考えを全員が記入して発表し、18名が「なぜならば…」と理由付けすることができた。残りの児童も、調べたことを基に順位付けを行った後に内容を選んで書くことができたことから、「くらべっこシート②」を利用した順位付けをする話合いが生かされていたと言える。

以上のことから「整理・分析」する過程において、「くらべっこシート②」を利用した活動を行えるようにしたとは、まとめ・表現するために自分が取捨選択したことの根拠・理由を明確にもつために有効であったと考える。

4 研究を通しての児童の変容

本実践において、「リサーチ活動」及び「くらべっこシート①②」を学習に取り入れた結果、授業中のつぶやきや振り返りカードの記述から、調べて分かったことを皆に伝えたいという児童の意識が徐々に高まる様子が見られた。

また、授業前後に行ったアンケート調査の結果からも、児童が自覚的に情報の収集を行い、表現することに対して意欲をもって能動的に取り組むことができたと言える（図12）。

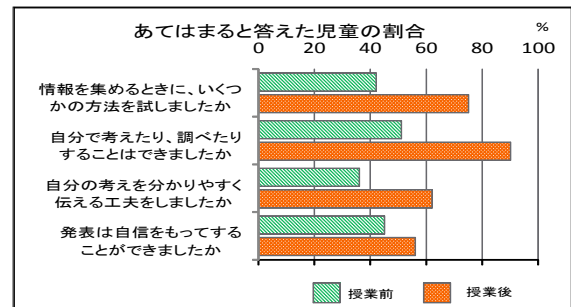


図12 学習前後のアンケート調査の結果

VII 研究のまとめ

1 成果

○ 児童の進んで表現する意欲を高めるためには探究の過程の「まとめ・表現」以前の「課題の設定」「情報の収集」「整理・分析」の過程において、自分の考えをもって学習に取り組めるようにすることが重要であることが明らかとなった。

2 課題

○ 今回は、探究の過程「まとめ・表現」を研究の対象外としてきた。さらなる進んで表現できる児童を育てていくためには、今後、本研究の手だてを受けた「まとめ・表現」の工夫を検討していく必要がある。

<参考文献>

- ・田村 学 編著 『リニューアル総合的な学習の時間』 北大路書房 (2009)
- ・外山 滋比古 著 『思考の整理学』 ちくま書房 (1986)